

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 ぎふ農村ワーケーション推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 農村企画係 電話番号：058-272-1111(内4176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,000 千円 (前年度予算額：10,878 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	10,878	10,878	0	0	0	0	0	0	0
要求額	12,000	0	0	0	0	0	0	0	12,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

新型コロナウイルス感染症対策により、テレワークやリモートワークといった新しい働き方が広がってきており、働く場所を自由に選択して働く人が増えてきている。

また、田園回帰の流れをうけ、都市住民が農村部で農業体験や農業ボランティアを行う「地域課題解決型」のワーケーションを行う人が増加している。

そこで、農村地域でのワーケーションを推進するため、農村地域でのワーケーションへの企業単位での参加の可能性を調査するとともに、農的関係人口の拡大による農村地域の活性化を目的としたワーケーション（地域課題解決型ワーケーション）の推進体制を整備する。

(2) 事業内容

○企業ニーズ等の調査

・企業ニーズに適合したワーケーションプランの企画や施設情報等の発信を行うため企業単位での参加の意向や参加条件等を調査

○「GIFU-D0（ぎふうど）農泊」の推進体制の整備：7,000千円

・農村の持続的発展に資する体験等（農村維持活動、有機農業体験等）をメインテーマとする滞在型プランを統一ブランド「GIFU-D0農泊」として取りまとめ、プロモーションを一体的かつ効果的に実施するための体制を整備。

(3) 県負担・補助率の考え方

活動範囲が県全域にわたる施策であるため、県負担とする。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	63	評価会議
旅費	119	職員旅費等
需用費		
役務費	100	郵送・通信費
委託料	11,700	「GIFU-DO農泊」の実施に向けた体制整備、企業ニーズ調査
使用料	18	会議室使用料
補助金		
その他		
合計	12,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略、ぎふ農業・農村基本計画

(2) 国・他県の状況

令和元年度に、ワーケーション自治体協議会が設立され、212自治体（1道24県187市町村）が参加している。

令和4年度、40道府県がワーケーション関連予算を計上している。

(3) 後年度の財政負担

ぎふ農業・農村基本計画の目標年R7年度に向けて「GIFU-DO農泊」実施のための体制整備とブランド化を集中的に実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県全体の農村のワーケーションを普及・啓発を目的とした事業であるため妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

休日に農村地域に滞在しながら仕事を行うワーケーションを推進し、農村地域の地域資源を活かした新たなビジネスの創出及び交流・関係人口の拡大による農村地域の活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
ワーケーションに取り 組む施設数	—	24	20	30	50	48%
農林漁業体験者数	—	159	270	280	300	53%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2 年度	農村地域の新しいビジネスの創出として、自然豊かな農村地域の地域資源を活用した岐阜県ならではのワーケーションを推進するため、県内の農泊施設やキャンプ場などに対し受入体制を調査した。
令和3 年度	「ぎふの農村でワーケーション」として、モデルツアーを5本実施した。また、県内の実践者や行政職員を対象に、ワーケーションセミナーを実施し、農村で実施するワーケーションの理解を深めた。
	指標① 目標：30 実績：24 達成率：80 %
令和4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>新型コロナウイルスの影響によりテレワークなどの新たな働き方が普及していきしており、それに対応したワーケーション対応施設も農村地域で増加している。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 2	<p>農村でのワーケーションという新たなニーズの開発にはつながっているが、新型コロナウイルスの影響による人流の抑制などにより、成果は限定的である。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価) 2	<p>旅行会社による提案型のモニターツアーを実施することで、魅力的なモデルプランが実施されており効率的である。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 観光地で実施するワーケーションとは違う、農村地域で行うワーケーションの魅力を多くの人に感じてもらい、農村との関わりを持つ関係人口の増加に結び付けていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 新たなライフスタイルである「地域課題解決型」のワーケーションを中心にした岐阜ならではのワーケーションを「GIFU-DO農泊」として展開するための体制整備を図る。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	